

令和8年度 大谷口小学校研究構想図

学校教育目標

- ・健康で心豊かな子ども
- ・自主的で実行力のある子ども
- ・よく聞きよく考え工夫する子ども
- ・きまりを守り、協力する子ども

R7年度の児童の実態

- ・自己調整型学習に慣れてきた
- ・友達と共に学び交流して学びを深めることや、めあてを立てて学習することに、楽しさを感じていた

板橋区のエデュケーション課題

- ・スタンダードS(生涯に渡り学び続ける力)
- ・読み解く力(Input Think Output)
- ・一人一台端末の活用(個別最適)

目指す教師像・児童像

- 教師:児童の主体性を尊重し、指導と委ねることのバランスを大切にする教師
- 児童:主体的に学び、他者と関わりながら自分の考えを深めていく児童

研究主題

「自己調整型学習を通した、主体的・対話的で深い学びの実現」

研究の視点

①1時間 /1単元における
自己調整型の学習過程

②学びのサイクルを
児童が回すための手立て

学びのサイクル「経験を知に変える」

やってみる → 振り返る → 気付く → 次に生かす

AAR「経験を改善につなげる」

何を目標した? → 実際どうだった?
→ うまくいった理由は? → 次はどうする?

視点① 選択 について

- ・何をどう選ばせるのかを考える。(6年間の見通しをもった各学年の取り組みを基に。)
- 選んだ後に児童が自分の考えを表現することができるようにする。

視点② 対話 について

- ・ペア、グループ等で考えを共有する。(6年間の見通しをもった各学年の取り組みを基に。)
- ・交流や話し合いの視点を設ける。
共通点や相違点、理由(叙述を基に根拠)を表現できるようにする。
→ただ話をするのではなく、相手の考えの良さに気付く児童を育てる。

視点③ 思考の可視化 について

- (6年間の見通しをもった各学年の取り組みを基に。)
- ・学習計画表を使い、めあてと振り返りの充実を図る。取り組みを明確にする。
- ・PC を使用しためあてや振り返りの共有。 ・レベル別ワークシートを使用する。
- ・単元の進み具合が分かる掲示する。 ・ヒントカード、ループリック等提示する。
- ・ふせんや模造紙を用いた思考の可視化、共有化を行う。